

# 小学校1年生の学級における社会的スキル訓練の効果検討 — 一向社会性の促進を目指して —

## Classwide Social Skills Training in the First Grade of Elementary School Toward Facilitating of Prosociality

中川 宏子 (Hiroko Nakagawa) 指導：佐々木 和義

### 【問題と目的】

近年、社会的スキルの学習不足は特定な子どもたちだけの問題ではなくなっていると言われている（金山・佐藤・前田，2004）。

このような状況を受け、我が国でも学級単位の社会的スキル訓練（Classwide Social Skills Training, 以下CSST）が実施されてきている（藤枝・相川，2001）。しかし、学級担任による実施や般化・維持、統制群の設定などの課題が指摘されており（小野寺・川村，2003）、小学校低学年の児童を対象とした研究は少ない。

そこで、本研究では、実践例の少ない小学校1年生の児童を対象にしてCSSTを実施し、効果を検証することを主な目的とする。学級担任が学級活動の時間に実施し、帰りの会を使って般化促進を図り、CSSTの実施時期をずらし、統制群を設定し、フォローアップデータも取得する。

義務教育初年度にCSSTを実施することは、その後の不適応行動予防のためにも意義のあることと思われる。研究を通して、CSSTの効果を検証するとともに、帰りの会を使うことによる般化と維持への効果も検討する。

### 【方法】

#### 1. 研究協力者

公立小学校A校の第1学年児童であった。1学級を実験学級（男子17名，女子14名）、別の1学級を統制学級（男子18名，女子13名）とした。

#### 2. CSSTの目標スキル

目標スキルは児童の実態に合わせて、「あいさつ」「なかまへの入り方」を選定した。

#### 3. CSSTおよび般化促進の手続き

実験学級では、CSSTを2009年10月に、統制学級では11月に行った。実験学級では、スキルを使ったことを帰りの会で発表したら連絡帳にシールを貼った。

#### 4. 評定尺度の構成

##### (1) 目標スキルの児童自己評定尺度

各スキルの目標行動について、どの程度できているかを4件法で回答を求めた。

##### (2) 目標スキルの教師評定尺度

児童自己評定尺度と同じ項目について、担任が評定した。

##### (3) 尺度の実施時期

実験学級はPre, Post, FU①, FU②の4回。統制学級は同時期にPre①, Pre②, Post, FU①の4回行った。

### 【結果と考察】

#### 1. CSSTの効果について

自己評定・教師評定それぞれについて、CSSTを行った実験学級と行っていない統制学級とを比較するため、学級（被験者間：実験学級/統制学級）と時期（被験者内：Pre/Post）を要因とする2要因の分散分析を実施した。

「あいさつ」は、実験学級が有意に増加していた。

「なかまへの入り方」は、自己評定と教師評定で結果が違い、効果は明確でなかった。

#### 2. 般化促進の効果について

CSSTの般化促進の効果について検討するため、学級（被験者間：実験学級/統制学級）と時期（被験者内：Pre/Post/FU）を要因とする2要因の分散分析を行った。

「あいさつ」は、両学級ともPostの平均点がPreに比べて有意に増加していた。CSSTの効果があったと考えられる。般化促進の手続きによる有意差は表れなかった。

「なかまへの入り方」は、明確な効果がみられなかった。

#### 3. 維持効果について

「あいさつ」は、効果が2か月後も維持されていた。

### 【総合考察】

1年生におけるCSSTの効果は、「あいさつ」については検証できたと考えられる。

般化を促進する手続きの効果は明確ではなかったが、効果の維持がみられた。1年生は1日中担任と生活するので通常の教育活動だけでも、般化・維持につながったと考えられる。しかし、家庭での般化も図れたことは、より長期にわたるスキルの維持に有効であると思われる。

今後の課題として、効果の検証方法の検討が挙げられる。